

科目名		経済学特殊講義Ⅱ（マクロ経済学）	
担当教員	今井 久	科目区分	選択必修科目
開講区分	後期	単位数	2単位
曜日時限	月曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	マクロ経済学の基礎理論を体系的に理解する。		
授業概要	<p>経済学とは、この世に存在する「限りある資源」及び、それらから創造された価値を、いかに効率的に分配していくかを研究する学問である。よって、社会全般の経済活動が研究の対象になり、その対象によって「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」とに大きく分けることができる。経済学特殊講義Ⅱでは、マクロ経済学を学んでいく。</p> <p>マクロ経済学は、一国全体の経済活動の分析を行うものである。例えば GDP（国内総生産）、総雇用、物価、失業率、経常収支といった集計量を用いて、それらの大きさや変動がどのように決まるのかを分析する。我々の日常生活における経済関係のニュースの多くは、マクロ経済学と関連している。この講義においては、まず、理論的なフレームワークを学び、その後、アップデートな経済関連の出来事を、マクロ経済学の理論で分析していく。</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	オリエンテーション		
第2回	需要・供給とマクロ経済学		
第3回	マクロ経済活動の測定		
第4回	完全雇用モデル		
第5回	貨幣と銀行システム		
第6回	完全雇用下の財政と開放経済		
第7回	経済成長と生産性		
第8回	経済変動の理論		
第9回	総支出と総所得		
第10回	開放マクロ経済と政府の政策		
第11回	総需要とインフレーション		
第12回	インフレーションと失業		
第13回	財政政策		
第14回	金融政策		
第15回	まとめ		
準備学習等 （課題・予習・復習・調査等）	毎回、講義の復習、または次回講義の予習に関する課題を出すので、その課題を次回の講義までにやってくることをとする。		
評価方法・基準 ・講評の方法	定期試験（レポート）（50%）、複数回の小レポート（50%）で評価する。 各自のレポートの講評については、メール等によって行うことを基本とするが、希望者には研究室で直接説明する。		
テキスト・参考書	ジョセフ・E・ステグリッツ著『ミクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、2006年 伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年 デビッド・クレプス著『ゲーム理論と経済学』東洋経済新報社、2002年		
前年度の授業を ふまえた今年度 の授業方針			
学生への メッセージ			
授業に参考と なるサイト			
関連する画像			

その他・備考